

## 第 113 回 REAAA 評議員会出席報告

黒 田 孝 次\*

### はじめに

アジア・オーストラレイシア道路技術協会 (Road Association of Asia and Australasia:以下「REAAA」という) の第 113 回評議員会が 2020 年 11 月 27 日に、REAAA 本部主催の Web 評議員会 (Zoom 会議) として開催された。前回 7 月 7 日の第 112 回 REAAA 評議員会も Web で開催されており Web 評議員会も 2 回目のため効率的な議事進行となった。また、第 113 回評議員会の直前 11 月 19 日には REAAA 初めてとなる Zoom での Webinar 1 (道路交通分野における COVID-19 の影響と対策) が開催され、日本を含む 5 カ国からの発表に約 400 人が登録し視聴された。

COVID-19 の影響は REAAA メンバー国すべてに及び、会議の方式をも変えてしまったが、コロナ対策を含めたニューノーマルを積極的に推進する REAAA 活動に変化している。日本からは橋場 REAAA 副会長 (日本道路協会 代表評議員)、山川推薦評議員、鳥居推薦評議員、黒田 (高速道路調査会 代表評議員)、片山 JEXWAY 社長 (オブザーバー参加)、神谷 舗装技術小委員会委員長が出席、他のメンバー国からも多くの評議員が参加して第 113 回評議員会は成立した。

今回の報告では評議員会の概要について黒田が担当し、技術委員会および舗装技術小委員会については鳥居氏、神谷氏が担当する。

第 113 回評議員会 (11 月 27 日, 10:00 ~ 13:30 日本時間)

### 1. 会議の開催

(1) Mr. Romeo Momo・REAAA 会長 (昨年 9 月よりフィリピン国会議員 (Lower House)) の冒頭挨拶は、COVID-19 の感染が新しいステージを迎えて、多くのメンバー国で感染者数を増やしている中、今回も Web 会議という新しい方式での開催となり、事務局には準備に骨を折っていただき、また多くの評議員には未曾有の困難のなかで参加いただいたことに感謝した。

(2) 今回の第 113 回評議員会には国別で、マレーシア、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、韓国、台湾、シンガポール、タイおよび日本が出席し、多くの評議員の出席により評議員会は成立した。

### 2. 議事録確認

前回 7 月 7 日に Web 会議で開催された第 112 回評議員会議事録は異議なく了承された。

\* REAAA 評議員

### 3. 財務長報告 (Ms. Lydian Wardhani, Nonon)

2020年1月から10月末時点10カ月間の財務報告、この期間はまさにCOVID-19の影響を踏まえての状況報告となった。1つ目は会費の未払いが多いこと、10月末までの会費納入は予算の47.17% (RM 140,354)であり、歳入全体が滞っている。2つ目は広告収入など、収入のさらなる訴求が全くできていないこと。一方、この間の支出は2回の評議員会をWeb会議としたことから旅費の削減などが寄与し、予算の59.60% (RM 172,208)の支出となっている。財務長はこの2つの数字から現時点でRM 31,854 (約100万円)の赤字となっていることから、会費の納入について促進を求めた。この報告に対して、モモ会長から会費の納入はCOVID-19の影響で遅れてはいるものの、年内にはマレーシア、フィリピンなどからの納入が期待できること、また未納額は比較的少額であるが、評議員がいないバングラデシュ、フィジー、サモアなどは各国のアクセスポイントを調べ会費の納入について協力を求めるなどの説明があった (日本は約6万円、RM 2,150の会費未納)。

### 4. 事務総長報告 (Mr. Zulakumal Sufian)

事務総長の業務も年当初からCOVID-19の影響を受け、第112回評議員会の開催延期、そして評議員との協議調整から第112回評議員会は本部主催Web会議の開催とした。このREAAAとして初めてのWebでの開催についてはマレーシア公共事業省の協力を得て、なんとか成功裏に終わることができた。さらに第113回評議員会は、予定していたニュージーランドでの開催を本部主催のWeb会議へと変更し、本日を迎えている。また、今回の評議員会の直前11月19日にはREAAAとして初めてのWebinarを開催し、多くの視聴者を集めることができたことは喜ばしい。この困難な状況の中でREAAAとしての活動を新しい形で進めるにあたっては、評議員から多大な協力と理解が得られ、事務総長の責任を果たすことができると考えている。

次に、技術論文のAbstract (論文概要)の審査結果が一部の執筆者に未だ届いていないことから、予定されている技術論文の提出期限を1月末まで延長する書簡をフィリピン国内委員会に送付した。さらにニュー

ジーランドから2021年9月に第116回REAAA評議員会の開催をウエリントン市で計画していたが、COVID-19関連で国の方針により今後18カ月間は国際会議の開催が禁止されたことから、2022年9月にニュージーランドで評議員会を開催するとの提案を受けている。そしてフィリピン国内委員会からは2021年6月に計画されているREAAA総会を延期する提案を受けている。この第113回評議員会では3点の延期について結論を出したいと説明があった。

### 5. Webinar 委員会報告

前回7月7日に開催した第112回評議員会で設立が決定されたWebinar委員会の初会合 (10月12日、委員長 Mr. Zulakmal Sufian を含む12名の委員、Zoom開催)において、初めてのWebinar1の開催が11月19日と決定された。このWebinar1では5名、5カ国の発表者を迎え、多くの視聴者 (QRコードでの登録者数は465)を集めることができた。また2021年1月には続編としてWebinar2を計画している。このWebinar1、およびWebinar2ではCOVID-19による道路交通への影響と対策をテーマに、メンバー国とPIARCからの発表を計画している。

### 6. REAAA 第16回総会の開催

前回の第112回REAAA評議員会で2021年6月に開催することが決定された第16回総会について、急きょ議題が追加され議論した。REAAA規定から、大会の90日前には事務局から全会員に開催通知、および来期の会長以下、各役員選考のために投票用紙を配布することが決められている。今回が総会前の最後の評議員会であり、6月開催に向けて必要な事務手続きも含めて決める必要があるが、現時点ではCOVID-19の感染者が増加しつつあり、フィリピン政府の国際会議への規制も厳しくなりつつある。そのためフィリピン国内委員会から第16回総会の開催時期、開催方法の選択肢について提案を受けたため、評議員会で決定することとなった。

総会はWebでの開催は避けたいとの意見が多く、対面方式での開催を目指すことを決め、次に開催時期についてはワクチンが2021年6月までにはメンバー

国に行き渡る可能性があることから、2021年9月にフィリピン・マニラ市で開催することを決定した。詳しい日程については、後日フィリピン国内委員会から連絡される。

また、総会の開催時期が3カ月延期されたことから、2021年3月に第114回 REAAA 評議員会を追加開催することが決定した。

## 7. 技術委員会報告

委員長の Mr. Kieran Sharp が技術委員会全体の進捗状況を報告し、次に舗装技術小委員会 神谷委員長から小委員会での活動報告がされた。技術委員会および舗装技術小委員会の活動については鳥居氏と神谷氏から別載で報告する。

## 8. 会員促進委員会報告

委員長の Mr. Sugiyartanto (インドネシア道路総局長) から会員の増減 (2020年7月1日から10月末の4カ月間) について説明があった。会員総数は1,267会員となり、前回評議員会時に比べて91会員の減 (19会員の加入, 110会員の退会) になったことが報告された。また COVID-19 の影響による会員数の減少を少しでも抑えるために、現在の会費未払い2年による会員資格喪失について、未払い猶予期間を2年から3年に伸ばすことが提案された。しかし、効果に疑問があるため議決には至らなかった。

## 9. 広告委員会報告

今回は REAAA のホームページにマレーシアから1件の広告、E-ニュースレターにインドネシアから1件、RM 2,000 の広告収入が得られたと報告された。このように広告収入が少額で限定的になっていることから、前評議員会で決議されたように各国から最低1件の広告が掲載されるよう、評議員の理解と協力を得たいと委員長代理として事務総長からお願いがあった。

## 10. フェローシッププログラム

マレーシアの Dr. Denis Ganendra から説明。COVID-19 の影響からインドネシアで第112回評議員会と同時に開催予定としていた第8回ビジネス・フォーラムでの

フェローシッププログラムを変更し、2021年にマニラで開催予定としている REAAA 総会のビジネス・フォーラムでのプログラムに変更することにした。2021年の REAAA 総会および第8回ビジネス・フォーラムに向けて、プログラムへの寄付 (USD 2,000 ~ 3,000) の申し出を期待している。

## 11. ニュースレター

韓国が担当しているニュースレターについて韓国道路協会の Ms. IO Song から説明。ニュースレター <REAAA Newsletter 2020-2> は11月に刊行した。このニュースレターは、メインテーマを COVID-19 とし各国の状況報告にとどまらず、卓越した対策法についても取り上げた。REAAA メンバー国の COVID-19 対応は世界で注目を集めており、その紹介ができたことは REAAA の活動として大変意義があると考えている。次の <REAAA Newsletter 2021-1> では、第16回 REAAA 総会の紹介と、インドネシアの首都移転計画を “Road to New City” と題して地域最大のインフラプロジェクトを紹介する予定である。

## 12. 片平・三野基金

黒田から報告。両基金は Standard Chartered Bank Singapore の定期預金としており、現在の片平基金の残額は GBP 36,925.74 (日本円で約520万円)、三野基金は USD 35,051 (日本円で約365万円) と、それぞれ英国ポンドと米国ドルの基金になっている。片平基金はブレグジットの影響により以前に比べて25%程度の評価損が見られるが、金利で少しずつ額を増やしている。また、片平賞と三野ベストプロジェクト賞の賞品、賞金については、その必要額を日本企業から寄付をいただいております。過去に両基金には一切、手を付けずに済んでいることを報告。今回の片平技術論文賞 (副賞) の賞金総額 USD 3,000 については既に片平グループから寄付の申し出を受けている旨も報告。

## 13. 三野ベストプロジェクト賞

橋場氏から報告。三野ベストプロジェクト賞は選考工程を見直し、ノミネーションの締切りを11月30日から12月31日に変更し、評価委員会から授賞プロジェ

クトの決定を2021年2月28日に、そして2021年3月に予定されている第114回評議員会で了承を得るスケジュールとした。前回と同じように<High-volume road>と<Community-road>の2つのカテゴリーに分けて賞を付与すること、そして第2回REAAA三野ベストプロジェクト賞は第16回REAAA総会(フィリピン、マニラで開催)にて表彰することが確認された。また三井住友建設(株)から同賞への寄付の申し出を受けている(USD3,000)。

#### 14. Hwang 基金および REAAA-Hwang 賞

Mr. Sung-Hwan Kim から報告。REAAA の名誉会員であり、現推薦評議員でもある Hwang 氏から USD 90,000 あまりの寄付があり、受賞者に USD 10,000 の賞金が副賞として付与される。その REAAA Hwang 賞の評価委員会が11月12日に開催された。その委員会での提案を受け、複数名が同時受賞でき、また副賞の賞金は複数の受賞者で分けることができるように、選考規則を変更することを評議員会に諮り了承された。

その結果、Kim 委員長から Hwang 賞は、オーストラリアの Mr. Kieran Sharp、マレーシアの Mr. Wan Abdul Rahman (Tan Sri Wan) の2人が受賞し、副賞はそれぞれ USD 5,000 を授けることが報告された。表彰式はマニラでの第16回REAAA総会開催中に行われる。

#### 15. 今後のスケジュール

次回の第114回評議員会、および第16回REAAA総会、総会と同時開催される第115回評議員会、第116回評議員会、そして総会後の第117回評議員会(2022年3月開催予定)、さらにニュージーランドでの第118回評議員会(2022年9月)のスケジュールが確認された。今回の評議員会で第16回REAAA総会が2021年6月から9月開催へ延期することが決定されたことに伴い、急きょ第114回評議員会(2021年3月開催)はWeb会議で提案され本部主催となる。

ニュージーランドでの評議員会は当初2020年9月21~23日(月~水曜日)開催予定としていたが、ニュージーランドから1年半以上延期する提案があり、ニュージーランドでの評議員会の開催は2022年9月に開催

予定とする。

第16回REAAA総会直後の第117回評議員会は、新任された会長の出身国で開催することが不文律になっている。そのため今回の評議員会で韓国チャプターから、推薦された Dr. Sung Hwan Kim が第16回総会において会長に選出された場合には、第117回評議員会は韓国で2022年3月に開催することになる(下記、16. 指名委員会を参照)。

このREAAA総会、評議員会の日程が決定したことに関連して、技術論文の提出期限が2020年11月末から2021年2月末に延長され、またREAAA三野ベストプロジェクト賞のノミネーション締切り期日が2020年11月30日から2020年12月31日に延長された。

なお、第16回REAAA総会の開催、三野ベストプロジェクト賞、技術論文の各スケジュールについては、REAAAウェブサイト(www.reaaa.net/)にて確認を乞う。

#### ○第16回REAAA総会開催予定

2021年9月に対面方式で開催予定とし、日程は9月19~25日を第1候補に後ほど国内委員会から連絡。総会ではHORA(Head of Road Association)会議と、ビジネス・フォーラムを同時開催するように準備を進める。開催通知は2021年3月31日に行い、同時にREAAA役員など選考の投票用紙も配布予定。

#### (今後の評議員会開催予定)

第114回評議員会：2021年3月 本部開催(Web評議員会)

第115回評議員会：2021年9月 REAAA総会と同時開催 フィリピン・マニラ

第116回評議員会：2021年9月 REAAA総会と同時開催 フィリピン・マニラ

第117回評議員会：2022年3月 新会長の出身国(韓国の可能性)

第118回評議員会：2022年9月 ニュージーランド・ウエリントンで開催

#### 16. 指名委員会

前回の評議員会時に、インドネシアチャプターから

次期 (REAAA 第 17 期) 会長として、韓国からの立候補を推薦する旨の書類が届いた。それを受けて韓国チャプターは国内調整を進め、今回の評議員会では韓国チャプター代表の Dr. Sung Hwan Kim を次期会長に推薦する書類を提出した。日本の評議員はこれをサポートする意思を表明した。評議員会はこの推薦を受け入れ、2021 年 3 月に発出される投票用紙に唯一の候補者として記載することを決定した。

## 17. 名誉会員

名誉会員審査委員会の Dr. Dardak Hermanto (直前会長) 委員長 (インドネシア) から説明。1 名の棄却の後、13 名の名誉会員への推薦を受け付けた。当評議員会の合意を得たため、次のステップとして会員投票に進む。日本からは長年にわたる REAAA への貢献を感謝し現推薦評議員である山川氏、鳥居氏の両名を同委員会に推薦し、今回の評議員会で指名を受けた。両氏を含めた 13 名が会員投票の対象になる。現時点で REAAA 全体では名誉会員は 37 名であり、物故者も既に多くなっている。日本では REAAA 会長も務め

た三野定氏が 1995 年に初めて名誉会員となっており、両氏はそれ以来の名誉会員就任となる。

## さいごに

11 月 27 日、REAAA メンバー国すべてが第 3 波のコロナ禍に在り、Web 会議による第 113 回評議員会は無事に全議事を完了した。ただし、今後も REAAA 活動では COVID-19 の影響は避けがたく、第 16 回 REAAA 総会は 2021 年 9 月開催へ再延期を余儀なくされた。そのような環境の中、新しい通信方式を駆使して、今後も情報発信や情報共有に努めていくことになる。11 月 19 日には REAAA として初めての Webinar を開催し、多くの視聴者を集めることができた。シリーズ化することを決定し、2021 年 1 月には第 2 回目の Webinar を開催予定である。一方、コロナ禍が収まらない中、技術論文の提出期限の延長や REAAA 各賞の応募締切り延長など情報提供が遅延し、また混乱を生むなど、多くのご迷惑をかけている。第 16 回 REAAA 総会に向けて、今後も REAAA 活動を支援下さいますようお願いしたい。

# REAAA 技術委員会・舗装技術小委員会報告

神谷 恵三\* 鳥居 康政\*\*

本稿では 11 月 27 日に行われた技術委員会および舗装技術小委員会について、出席した鳥居および神谷より報告する。

## 1. 技術委員会

表一は Sharp TC (技術委員会) 委員長が準備した資料を基に、TC およびその傘下の PTC (舗装技術

小委員会) 他 2 つの技術小委員会の各会員国別委員参加状況を取りまとめたものである (2020 年 10 月現在)。表中の CCREMC, RSC はそれぞれ気象変動・レジリエンス・緊急事態管理小委員会 (Climate Change, Resilience and Emergency Management Committee), 道路交通安全小委員会 (Road Safety Committee) の略である。なお TC 委員には、前評議員会で提案のあった「TC 活動活性化のためのタスク・フォース」の委員も含まれている。また会員国の欄には、REAAA の YP (Young Professionals) と事務局および PIARC (関連 TC), さらに RSC に参加している外部機関も挙

\* REAAA 舗装技術小委員会 (PTC) 委員長, 中日本高速道路㈱技術支援部専門主幹

\*\* REAAA 技術委員会委員, PTC アドバイザー, 世紀東急工業㈱常任顧問

表一 1 REAAA 会員各国別技術委員会参加状況

Country	TC	PTC	CCREMC	RSC
Australia	●	◎	●◎	◎
Brunei	○	○		
Indonesia	○	○	◎	◎
Japan	◎	●◎	◎	○
Korea	○	○		
Malaysia	◎	○	◎	●◎
New Zealand	○			
Philippines	◎	○	○	○
Singapore	○	◎		
Taiwan	○	◎	◎	◎
Thailand	○	○	○	
YP	○			
Secretariat	○	○	○	○
PIARC		○	◎	
iRAP				○
World Bank				○

(注1) ○単独委員, ◎複数委員, ●委員長

(注2) iRAP : International Road Assessment Programme

げてある。

TC 全般の活動については「フラストレーション」が収まらないと切り出した委員長報告であったが、今回は前回報告より具体性を持った項目・内容も含まれている。以下、私見を交えながら委員長報告順に概要を記述する。

まず、TC 本体については表から明らかなように、全会員国から参加登録がされており、かつタスク・フォーラムも組織されたことから構成上全く問題がない。小委員会の構成を見ると PTC が 11 会員国中、ニュージーランドを除く 10 カ国が委員登録を済ませており、活動も後述されるように連携のとれた調査研究がなされている。

CCREMC, RSC への参加国はそれぞれ 7 / 11, 6 / 11 となっており、いずれも過半数の国が関心を示していることがわかる。今回は委員長から改めて未登録の国名が挙げられ、CCREMC については関心がなく登録の意思がない場合はその旨を、RSC については適任者を連絡するよう要請があった。

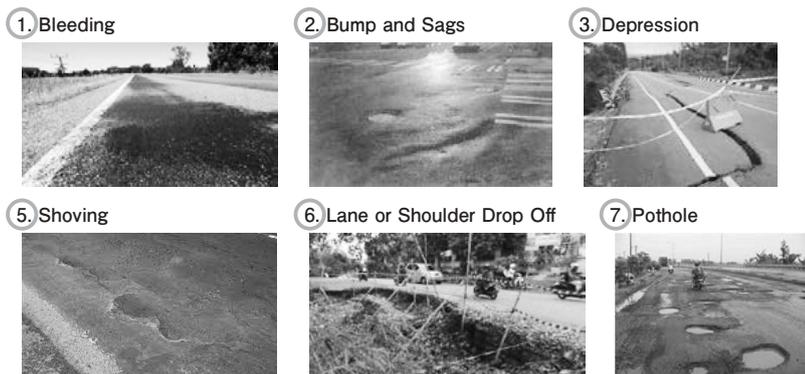
次に技術関連刊行物について、オーストラリア支部

会員によるショート・ペーパーを収録した“Journal”を委員長が準備中であること、ミャンマーの舗装マニュアルが日本・ミャンマー関係者の共同執筆の形を取ることでまとめ、2021 年 3 月頃にドラフトが完成、委員長のレビュー後に“REAAA Technical Report”として刊行予定であることが報告された。これらの 2 件は前回からの継続案件であるが、本報告の前段に紹介されている“COVID-19”が道路交通インフラに与える影響に関する Webinar 2 回分の発表事例集を新たな“REAAA Technical Report”としてまとめる案が示された。もちろん量と質を吟味の上との注釈付である。

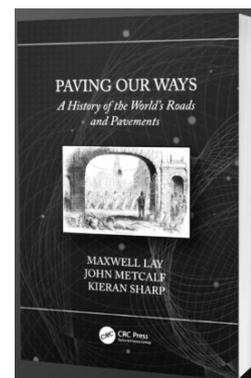
技術小委員会のうち日本が幹事国を務める PTC の活動は後半に単独項目として報告する。

CCREMC はオーストラリアが幹事国となっている。委員会の特徴として、本委員会と関連の深い PIARC TC 14 (Climate change and resilience of road networks) の委員長 (オーストラリア) と TC 15 (Disaster management) 委員長 (日本) 2 名が本委員会のメンバーとして参加している。委員構成のアドバンテージを生かし、テーマの選定、委員会の運営に当たっては当初から PIARC (TC) との連携に留意しているが、未だ具体的な作業に着手していない。ただし、委員長報告では前述の“COVID-19”関連の Webinar で取り上げたトピックスは、本委員会ですべて最初に扱う予定のテーマとのことであった。また、本誌でも先に紹介した“Report on FEHRL Scanning Tour to South Korea and Japan : Infrastructure Resilience” (現在は“REAAA Report TC-10 としても公表) に挙げてある提言も参照し、委員会の設立目的に合ったベスト・プラクティス集をまとめたいとのことである。

RSC については前回の報告で交代予定と記したが、マレーシア道路交通安全研究所 (Malaysian Institute of Road Safety Research, MIROS) の新所長 Ir. Dr. Muhammad Marizwan bin Abdul Manan が新委員長に就任し、旧委員長は委員として残ることが報告された。この委員会は独自に行動を開始しており、コロナ禍で進捗が遅れ気味と言いながらオートバイ利用者に焦点を絞った“vulnerable road users”というトピックスで会員各国の実態調査を計画中とのことである。



写真—1 インドネシアの舗装損傷事例



写真—2 PAVING OUR WAYS  
—A History of World's  
Roads and Pavements—

## 2. 舗装技術小委員会

前評議員会以降の最大の成果は、アジア諸国の舗装構成と設計因子に関するアンケート調査について、11加盟国中10カ国の回答を得たことであった。この背景には、Sharp 委員長による親身な電話対応の協力があつたことを述べた。回答の中には詳細な情報を付すもの、新たな回答オプションを提案するもの、図や写真の提供があつたことを踏まえ、追加アンケートを実施している。具体にはアスファルト舗装の損傷事例に関するものであり、写真—1 に示すインドネシアからの写真入り回答を踏まえたものである。これらの回答に協力をいただいた関係諸氏に対して厚くお礼の意を述べた。

次回のマニラで開催される総会では、PTC 会議の場でこの調査結果を報告すると共に、総括レポートを配布する旨を提案した。

PIARC TC 4.1 舗装委員会とのコラボレーションについては、引き続き TC 4.1 の活動計画に準じる考えを表明した。この具体案は、マニラ会議の場で提案するが、現在のアンケート調査や過去の技術レポートからアレンジする予定である。

今後のコラボレーションに鑑みて、PIARC TC 4.1 舗装技術委員を務めている NEXCO 総研の高橋 舗装担当部長にも本評議員会への出席について、Sharp 氏から要望された。

## 3. その他

Sharp 技術委員長報告には、他に「道路交通統計」と「PIARC との連携」という2項目が含まれていたが、前者は前回と同様に REAAA 事務局からの最新数字が示され、後者は委員会報告の中に触れられていることから省略された。

前回報告では、オーストラリアで進められている(仮称)『世界の舗装の歴史』が刊行予定と記したが、今回は写真—2 に示すような体裁で発刊されたことが報告された。正式なタイトルは“PAVING OUR WAYS —A History of World's Roads and Pavements—”となっており「道路」と「舗装」双方が扱われている。筆者の1人、Sharp 委員長から送られてきたフライヤーには、幅広い読者を想定し、ハードカバーとデジタル版の両方で販売中とのことである。

なお、本報告者は Sharp 氏の好意により本書を入手する予定である。わが国の階段国道 339 号がどのように記述されているか確認したい。